

『個人と社会を媒介する市場の役割とその変化——消費行為からみた情報ネットワーク社会の展望——』

論文審査の結果の要旨

氏名 朴 奎相 (パク・キュウサン)

本論文は、情報学、社会学、社会心理学、経済学、経営学、メディア論など多領域にわたる膨大な先行研究を踏まえて、消費者としての個人と市場との相互作用的關係、消費者としての個人と社会との相互作用的關係について着実な考察を行い、その上で情報ネットワーク社会の進展という社会変化において個人はどのような役割を演じるのかという点について考察し、消費者としての個人が情報ネットワーク社会の形成に果たしている役割、あるいは果たしうる積極的な役割について明らかにしている。

本論文は、序論、4つの章、及び結論の6つの章から構成されている。序論での問題設定及び研究アプローチの提示につづき、第1章「<個人—社会>の相互規定性とアイデンティティ」において個人と社会の關係についての研究動向と本研究アプローチとの関連について検討し、第2章「消費と社会」において消費行為におけるアイデンティティなどの消費と社会との關係、普及による社会変化について考察し、消費—市場—社会の連関を整理し、第3章「關係形成の場とメカニズムとしての市場」において市場がもつ消費行為を集散化する場または制度としての特性について考察を展開している。そしてこれまでの考察を踏まえて第4章「情報ネットワーク社会の市場変化とその方向」と結論において情報ネットワーク社会における市場変化の具体的動向、それに伴う消費行為との相互作用の様態について考察し、情報ネットワーク社会における個人の消費行為と市場の変化の方向性を明らかにしている。

本論文は、多くの研究領域にまたがる膨大な研究業績を踏まえて個人と社会との相互作用的關係、個人と市場との相互作用的關係に関して基礎的考察を慎重に展開し、情報ネットワーク社会の進展状況と消費者としての個人の相互規定的關係、相互作用的關係を明らかにしている。さらに、第3章までの慎重かつ基礎的考察が第4章にすべて生かされているとはいえないが、①情報化という社会変動プロセスにおけるアイデンティティのあり方、②個人がいかに社会変動プロセスに影響を及ぼすのかという点、③ありうべき情報ネットワーク社会の要件について独自の見地より展望を行っており、学術的に意義のある論文である。よって審査委員会は、本論文が博士（社会情報学）の学位に相当するものと判断する。